

⇒「白旗山都市環境林」を語る会開きます。詳細は裏末尾に

白旗山都市環境林ニュース

2024年8月16日(金) NO.3 発行:札幌の自然を守る会代表 梶田清尚 HP:<https://midori.kei1.org>

身近な森林皆伐 CO2増加に

自然の豊かさ／札幌市が住みたい街に 札幌市の板垣武四市長が自著で評価

住んでみたい自治体TOP10が2016年11月、日経BPヒット総合研究所が発表しています。「シティブランド・ランキングー住んでみたい自治体編ー」のどこを指しての魅力的なのか。自然の豊かさ、街並みの美しさ、観光や仕事で訪れたときの好印象、アクセスの良さ、おしゃれなイメージによって、選ばれた理由は様々あげられています。「将来、住んでみたい自治体」としても選ばれています。

その第1位に札幌市が取り上げられています。理由では、日本の最北端の政令指定都市で北海道の行政や経済の中心地。サービス産業を中心に第3次産業が発

展しているところ。その一方で森林率は6割を超え、自然環境も豊かだと、評価しています。

札幌市の魅力は以前、「ふるさと再発見」がマスコミ界が取り上げ、快適で住みよい『まち比べ』が1980年代ころに大々的に紙面に登場していました。その当時、札幌市の板垣武四市長は、マスコミに取り上げられた札幌市のことを自著の「思い出すま」(1992年発行)で札幌の魅力として、こう記述しています。「イメージ調査ですから心象風景的な採点とならざるを得ませんが、札幌市はち24項目のうち13項目で『良いイメージ』を占め、私ははっとしました。『食べ物がうまい』『豊かな自然』『行ってみたい』がそれぞれが第一位」と、「やはり札幌市の魅力は自然の豊かさ」と述べています。それはいまでも変わらないはずなのですが、どうもいまの市長は違うようです。



「白旗山」皆伐・再造林は本当にカーボンニュートラルになるのか ～森林におけるCO2吸収源対策の危うい実態～



森林皆伐対象の林分の林況を見る

白旗山都市環境林は、札幌市清田区の有明地区に広がる市が保有する唯一のまとまった森林です。それだけ貴重な森林でもあります。現在、台帳面積1061ha、その他林内には国有未開地(一体的管理)100ha前後あり、距離スキーコース(施業適用除外)が20haほどあります。この森林は、厚別川と支流の山部川に挟まれた南北4km、東西3kmの矩形の丘陵緩斜地で、中央部に白旗山(321m)、札幌台(291m)の2峰があり、

これが分水嶺になって四方に小峰を走らせています(右図)。

森林の林種構成は、人工林900ha、天然生林174haで人工林率は84%、カラマツ人工林が全体の72%を占めており、そのうち林齢60年を超えるものが50%を上回っています(裏面の図)。



「白旗山都市環境林」の考え方継続されず

現在では、60年以下の林分において間伐整備を続ける一方、残りの林分では択伐を進める段階にあります。そこでは既存の、あるいは空隙に侵入してくる天然広葉樹の立木本数が造林木本数を超え、樹高、胸高直径ともに幼木の域を脱しています。また、択伐後のギャップにはトドマツ、エゾマツなどの樹下植栽を施し、カラマツがほぼ収穫を終える80年を過ぎるころには、ha当たり500本を超えているでしょう。

しかし、実態は必ずしも予定通りいかないのが普通のことです。それは行政側から択伐が行われたという情報が一向に耳にしないからです。おそらく財源的な事情があることに加え、これまでの「白旗山都市環境

「白旗山都市環境林」の森づくり

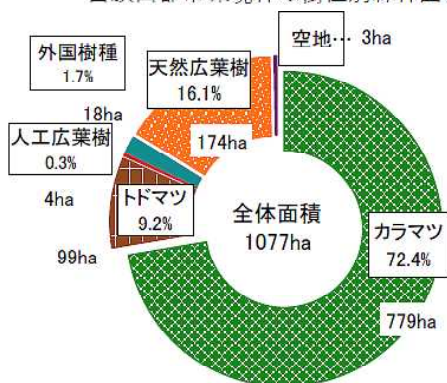
・1984(昭和59)年に、1913(大正2)年以来「西山造林地」の名で財政の足らざるところを補ってきたカラマツ等の人工林経営を転換。

・「白旗山都市環境林」に名称を変え、目的を「森林資源の培養をはかり、多角的な公益機能を高め、市民の憩いの森として開放するために」とした。

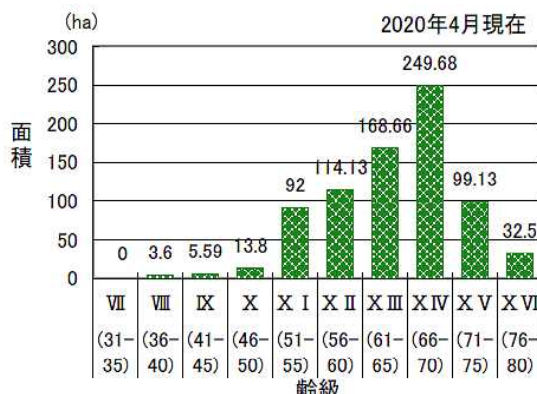
・以来40年間「皆伐を避け、カラマツの長伐期化や択伐を進め、エゾマツ・トドマツや広葉樹など郷土樹種による針広混交林に変えていく」という森づくりを積み上げてきた。

・それゆえ、森林の取り扱い区分も制度上の「保健・文化機能等維持林」に位置づけられてきた。

白旗山都市環境林の樹種別森林面積



カラマツ林齢級構成



「白旗山」って、
どんな森なの。そし
てどんな森づくりをし
てきたの。

この2つの図を見
るとよくわかるよ



お知らせ→「白旗山都市環境林」を語る会の開催 参加は自由／誰でもどうぞ

■日時 8月31日(土) 13:30から ■場所 札幌市資料館 大通西13丁目

林」において目指してきた森林整備の考え方が継続されず、しかも行政内部で共有されてこなかったことが要因だったのでしょう。こうした森林の取り扱い方の考え方や問題点は、これからの本紙で継続的に取り上げていきます。

真逆だ！札幌市長のCO2実質ゼロ宣言

札幌市は突然、2022年度から皆伐の請負事業を始めました。それに続いて2023年度に「白旗山都市環境林」の隣接する森林とは明らかに区別が付くひとまとまりの森林「25-8林分」においては、当会が指摘したとおり既に皆伐となっています(1面写真)。皆伐理由は札幌市長が掲げる「ゼロカーボン都市の実現」にあり、そのために札幌市気候非常事態宣言により2050年には二酸化炭素(CO2)などの温室効果ガスを実質ゼロにするとしていますが、はたして目的通り森林を皆伐することでCO2削減の成果となるのか、本紙ではその検証を行います。

結果は見るまでもなく、札幌市長の発した宣言はCO2削減どころか温室効果を高めるもので、真逆なことを推し進めているのです。森林皆伐はCO2を放出し、地球温暖化を促進する行為そのものになっています。そして市民の貴重な財産である「白旗山都市環境林」の破壊につながっているのです。後生にとつともない禍根を残すことになるでしょう。

そこで今後の分析に当たって、まず「白旗山環境林」の森林概況(下図)を見てみましょう。【つづく】